

科学研究費補助金（特別推進研究）公表用資料
〔研究進捗評価用〕

平成20年度採択分

平成23年5月24日現在

研究課題名（和文） 清朝宮廷演劇文化の研究

研究課題名（英文） A Study of the Culture of Court Theatre
during the Qing Dynasty

研究代表者

磯部 彰 (ISOBE AKIRA)

東北大学・東北アジア研究センター・教授



研究の概要：中国の演劇は単なる文化的娯楽に止まらず、中国人の精神構造や意識形成、中華思想の広がりや深く係わってきた。その源泉は清朝の宮廷演劇にあり、芸能の枠を越えた国策文化と位置づけられていた。本研究では、清朝の国策であった宮廷演劇文化を取り上げ、その社会的受容と展開に主眼を置き、清朝宮廷演劇が大清帝国(グルン)体制の中で果たした役割、延いては現代中国人の意識構造や社会秩序などに演劇が果たした機能を明らかにしてその文化的、政治的特徴を導き出し、本質的な中国理解を進展させる。

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：大清グルン、宮廷演劇、節戯、内府鈔本、南府・昇平署、儀礼、八旗体制

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日、中国の人々は、旧社会での宗教制や地縁性に回帰し、その紐帯に伝統文化の一つである演劇を利用している。現代中国の変容を分析する際、一つの重要な指標になり得る演劇文化は、清代に今日的姿となった。その清朝では、国家統治の手段として演劇の役割が重視された。

(2) しかし、宮廷演劇文化の研究は、通史・作品史で行なわれて来たが、その基盤を提供した社会や文化、政治との関係について関心が稀薄で、内府劇そのもの、地方文化形成との影響関係などは、全く未解決の分野であった。

2. 研究の目的

(1) 中国文化・社会の確立に深く影響を与えた清代の宮廷演劇文化を取り上げ、その性格と特徴、文化史上の役割を明らかにする。

(2) 具体的には、清朝の宮廷演劇、つまり内府演劇の中で、王朝が重視した内府劇の大戯・節戯に属する戯曲作品に焦点を当て、その内容と性格、テキストの問題、文学性、思想、後代の地方劇作品などとの関係を明らかにするとともに、清の宮廷が演劇に求めたねらいを明らかにする。

(3) また、大戯が依拠した小説など歴代の文芸との相互関係に着目し、清朝の出版政策・文化政策、近現代の戯曲資料の性格についても分析し、近世中国文化研究の基盤作りをする。

3. 研究の方法

個別課題に応じた5班を設け、ランクを付けた3段階の重要課題を分担事項に則って行なう。

第1段階（テキスト・資料、政治性研究）

第2段階（第1段階+文化・社会史的影響研究）

第3段階（中国文化・社会の特性研究）

4. これまでの成果

研究会はすべて公開とし、若手研究者・院生に場を提供するとともに、外国人研究者を招聘して、7回実施した。これとは別に規模の大きい国際会議を1回主催した。

本研究に直接関係する図書は、未公開資料の社会公開を兼ねて12冊出版した。研究論文は日本語論文13本、中国語論文14本を発表している。研究報告・発表は当方が主催した研究会では5件、国際会議では16件、国内学会では2件であった。国際会議での発表はすべて招待発表で、大会用語である中国語で行なわれた。ニューズレターは2冊(図書を含む)出版し、多面的な研究情報のみならず研究論文も掲載している。

これまでに得られた知見の概要は、以下の通りである。

(1) 連台大戯は、昇平宝筏・楚漢春秋・鼎峙春秋・昭代簫韶・如意宝冊について、大要が把握され、出典小説の依拠状況と相違点が判明した。

[4. これまでの成果 (続き)]

(2) 節戯の内容は、単に四季の風物のみならず清朝の国家事業を讃えるものも含まれ、政治的な背景が潜むことが推測された。

(3) 宮廷演劇を考える時の底本としては、乾隆朝では五色の刊本、及び四色の鈔本を正本とすべきであるが、嘉慶朝以降では草稿のごとき体裁の鈔本、或いは、二色刊本や民間劇団の台本のたぐいも含め、朝代によって正本の状況が異なる可能性が出て来たため、資料学の方面から細分化する必要がある。

(4) 内務府や昇平署といった宮廷演劇に係わる官署の役割を念頭に置いて宮廷演劇の検証すべきであり、その際、恩賞档案などの文書の利用が有効な働きをする。

(5) 宮廷演劇研究の底本とされた古本戯曲叢刊九集は、文化大革命に到る中国現代政治史と密接な関係を持つ一方、テキストそのものには、研究上の底本とすることに問題がある。

(6) 清末での西太后が進めた宮廷と民間の劇本の交流や民間俳優の登用は、民国初の劇団活動、そして文革期の革命的京劇の指導的立場にあった俳優を養成することでもあった。

(7) ベトナム使節は、中国国内を通過中に多くの演劇を見、また同伴した楽部の団員に北京で演奏などをさせていた。琉球王国でも、宮中の雅楽である御座楽を清との交流の中で形成して行った。

(8) 若手研究者グループを構成し、当初の研究対象作品以外、新たに混元盒などの着手、太平天国での宮廷演劇として、キリスト教劇を加えた新視点を設定するなどして、将来に亘る宮廷演劇文化研究を持続できるようにした。

5. 今後の計画

(1) 宮廷演劇各作品の梗概集としてまとまる。テキストや作品研究についての分析結果を国際学会で発表し、国内外で和文もしくは中国語による論文とする。

(2) 北京故宫博物院ほか、ヨーロッパ・アメリカに資料調査を行ない、テキストデータを集積する。また、宮廷演劇資料を刊行する。

(3) 公開の研究会、国際研究集会を通し、情報の交換、成果の取りまとめ、若手研究者の育成を図る。

6. これまでの発表論文等 (受賞等も含む)

(研究代表者は二重線、研究分担者は一重下線、連携研究者は点線)

[雑誌論文] (計 27 件)

(1) 大塚秀高、「神話与創作—關於逆流与擁抱」、『中国古代小説研究』、第 4 輯、pp. 97-114、2011 年

(2) 磯部祐子、「劇本において内府本とは何か」、『ナオ・デ・ラ・チーナ』、第 11 号、pp. 30-39、2011 年

(3) 赤松紀彦・金文京・小松謙・佐藤晴彦・荀春生・高橋繁樹・高橋文治・竹内誠・土屋育子・松浦恆雄、「元刊雜劇の研究 (八) (火燒介子推) 第三・四折全訳校注」、『京都外国語大学研究論叢』、75 号、pp. 27-50、2010 年

(4) 中見立夫、「清朝“辺疆史地学”与日本“東洋史学”的交流—《元朝秘史》抄本の渡日—」、『明清論叢』、第十輯、pp. 528-540、2010 年

(5) 金文京、「敦煌《舜子變》與廣西壯族師公戲《舜兒》」、香港城市大學中國文化中心編『西域—中外文明交流的中轉站』、pp. 55-74、2009 年

[学会発表] (計 18 件)

(1) 大塚秀高、「《全漢志伝》、《兩漢開国中興伝誌》研究緒論」、慶賀朱一玄先生飛躍年寿誕暨中国古代小説国際學術研討会、2010 年 9 月 24 日、南開大学 (中国天津)

(2) 中見立夫、「关于日本东洋文库与中国第一历史档案馆所藏镶红旗衙门档案」、清朝满汉关系史国际学术讨论会、2010 年 8 月 28 日、中国社会科学院近代史研究所 (中国北京)

(3) 杉山清彦、「清初期对漢軍旗人“滿洲化”方策」、清代滿漢關係史国際學術研討会、2010 年 8 月 28 日、中国社会科学院近代史研究所 (中国北京)

(4) 磯部彰、「《江流記》及《升平宝筏》与刊本西游记」、中国典籍与文化国际学术研讨会、2010 年 3 月 9 日、北京大学 (中国北京)

(5) 金文京、「關於兩種湯賓尹校本《三國志傳》」、2009 年韓国中国小説学会創立 20 周年記念国際學術大会、2009 年 9 月 19 日、崇實大學校 (韓国ソウル)

[図書] (計 12 件)

(1) 磯部彰編著、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『上海図書館所蔵「進瓜記」原典と解題』、2011 年、204 ページ

(2) 磯部彰編著、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『上海図書館所蔵「江流記」原典と解題』、2010 年、212 ページ

(3) 加藤徹、中央公論新社、『中国古典からの発想—漢文・京劇・中国人』、2010 年、304 ページ

(4) 金文京著・高橋智編、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『慶應義塾図書館蔵「四郎探母等四種」原典と解題』、2009 年、234 ページ

(5) 磯部祐子著、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『東北大学附属図書館蔵「如是觀等四種」原典と研究』、2009 年、170 ページ

ホームページ等

<http://eapub.cneas.tohoku.ac.jp/court/>